

# 大島寿太郎 年譜

明治 4	1871	1月17日、大島七太郎・千代野の長男として野上東樫ノ木端東に生まれる。幼年より、父七太郎について謡曲・仕舞の稽古をする。
明治 24	1891	沼隈郡松永尋常小学校訓導の職に就く。 福山高等小学校に転任。
明治 25	1892	5月4日、八幡神社神能にて「翁」付き「竹生島」を勤める。 明治27年夏季、明治35年冬季、明治41年冬季、教職の傍ら、長期休暇を利用して東京家元に能楽の修業に行く。
明治 33	1900	春 家元を招いての七太郎還暦祝賀能にて「猩々乱」を勤める。
明治 36	1903	8月22日、東町の高島エイと結婚。
明治 38	1905	6月25日、長女君枝生まれる。
明治 39	1906	10月9日、長男厚民生まれる。
明治 41	1908	10月17日、次男安登生まれる。
明治 42	1909	樹徳尋常小学校訓導兼校長を勤める。 春 家元を招いての七太郎古稀祝賀能にて「富士太鼓 狂乱楽」を勤める。
明治 44	1911	3月25日、次女正枝生まれる。 9月6日、家元より再度の要望あって能楽専門の道を進むために、校長職を依願退職。 10月2日、父七太郎没。享年72才。
明治 45	1912	春季、上京し、家元にて修業。
大正 2	1913	三女光枝生まれる。 9月16日、西町乙新馬場東447番地(現在の霞町、広島銀行あたり)に舞台建設のための地鎮祭を行なう。 12月、舞台建築落成。 喜多流師範の免状を受ける。(当時、師範は全国で45人ほど)
大正 3	1914	4月3日、大島舞台披キ能組 「翁」千歳 中垣利幸 三番叟 茂山千五郎 「絵馬 女体」シテ 大島寿太郎 前ツレ 藤井本三郎 天女 藤井修吉 力神 栗屋益二郎 「田村」シテ 安部謙吉 「羽衣 舞込」シテ 喜多六平太 「芦刈」シテ 坂茂馬 ツレ 岡田禎治郎 「小鍛冶 白頭」シテ 大島圭一郎 祝言「嵐山」シテ 大島源三郎 4月4日、故大島景翁追善能組 「賀茂」シテ 池田房吉 ツレ 横手萬作 天女 國友憲二 「盛久」シテ 小幡岩五郎 「隅田川」シテ 喜多六平太 子方 大島安登 「花月」シテ 安原平太郎 「海人 七段之舞 懐中之舞」シテ 金子亀五郎 子方 大島厚民
大正 4	1915	1月23日、三男久見生まれる。

大正 6	1917	1月 新作「鞆浦」石版刷りにて製本 1000 部作成。四つ拍子、舞付け、間狂言一切を案出。十四世喜多六平太、地頭金子亀五郎両師の校正を経て家元の認可を受ける。 4月 25 日、父景翁七回忌追善能にて、「鞆浦」初演。 6月 20 日、鹿児島市にて催能。「小鍛冶」シテ 友枝敏樹、「鞍馬天狗」シテ 大島寿太郎 子方厚民、「羽衣 舞込」シテ 大島寿太郎、「黒塚」シテ 崎山龍太郎、「船弁慶」シテ 大島圭一郎 子方 厚民。
大正 7	1918	四男和人、生まれる。
大正 8	1919	7月 5 日、芦田川決壊し、氾濫。床上浸水、畳は全部流失。 10月 19 日、宮島神能にて「国栖」のシテを勤める。
大正 9	1920	4月 25 日、「道成寺」披キ。観客 5～600 人。大盛況であった。
大正 10	1921	8月 28 日、四女幸枝生まれる。
大正 12	1923	9月、関東大震災。喜多家元へ震災見舞金を送る。
大正 13	1924	11月 9 日、亡父景翁十三回忌追善能「鞆浦」シテ 池田儀三郎、「箆太鼓」シテ大島寿太郎、「船弁慶」シテ 梅津正保 子方 小林政夫。
大正 14	1925	2月 9 日、長女君枝、安倍順市に嫁ぎ、朝鮮京城府に住む。 3月、家元舞台建築寄付金二千一円名簿を添え、喜多会宛に送る。 5月 15 日、故羽田惣右工門先生五十回忌追善能。「海人」シテ 梅津正保、「景清」シテ 十四世喜多六平太、「望月」シテ 大島寿太郎、子方 久見。
大正 15	1926	6月 17 日長女君枝没。享年 22 才。
昭和 2	1927	5月 1 日、「正尊」シテを勤める。
昭和 3	1928	4月 29 日、大島七太郎十七回忌追善能を催す。
昭和 4	1929	5月、呉にて「百萬」シテを勤める。 9月 21 日、没。享年 59 才。